日刊木材新聞

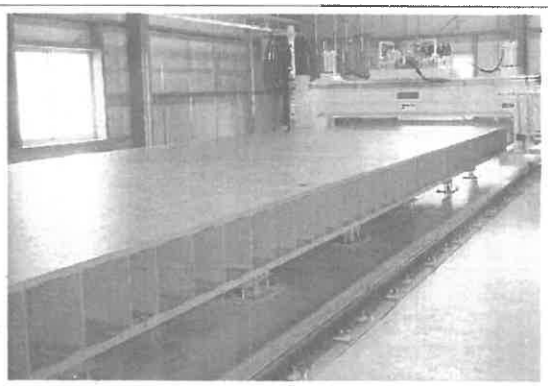
# トラス活用の非住宅事業拡充

## 角繁

## 杉間柱サイズ使用で県産材需要拡大も

角繁（秋田市、渡邊光社長）は、トラスを活用した非住宅木造躯体の供給事業を拡充する。1月末に同社プレカット工場内へのネイルプレート圧入装置導入を終え、杉、SPF間柱サイズの製材品を使用するトラス製造拠点が完成。木造需要が高まっている畜舎をはじめ、鉄骨・RC造が多い幼保園や集合住宅などの非住宅建築でも木造を実現するため、より競争力のある提案、供給を進めていくことが狙いだ。

新たに製造を開始するトラスは、三井ホームコンポーネントとの業務提携・ファブリケーション契約による製造がメーンで、北日本の日本海側を中心に供給する。主要原料に杉間柱寸法材（45、30×105、45、30×120ミリ）、SPFランバーを活用することを想定している。杉はJAS認証工場から調達し、秋田県産・国産材の活用拡大にも積極的に取り組んでいく考えだ。一般流通サイズの県産杉・国産材の活用が増えていくことで、原木・製材・製造と、一連の需要と供給の仕組みが確立され、木材産業の底上げにつながる可能性もある。また、秋田県立大学との共同研究で住宅にも活用できる平行弦トラスの開発も進めており、今後は2階床用などで提案を進めていく考えだ。既に、県産杉の強度試験などでは良い結果が出ている。



プレカット工場の羽柄ライン建屋に導入されたネイルプレート圧入装置

ネイルプレート圧入装置は山本鉄工所製で、テーブル寸法が16×3・8㍍。最大加工寸法16×3・3㍍、最大材料厚さ160ミリまで。導入には、ものづくり補助金を活用した。製材を羽柄材プレカットラインで加工した後、同装置により接合金具を木材に圧入して、トラスに組み上げる。当初は2人の人員で対応し、将来的には拡充していく考えだ。

一方、トラック輸送の限界から工場内での製造はスパン10㍍までで、それ以上は現場での組み立てとなる。また、同社はATAハイブリッド構法の提携プレカット工場にもなっており、より大スパンが必要な物件になれば同構法を提案。双方の特徴を生かして、非住宅分野での需要を開拓していく考えだ。まずはプレストラスを活用した非住宅木造物件で年間15棟の供給を目指す。

トラス導入のメリットは、工期の短縮を図れ、鉄骨より軽量なため基礎などを含めたトータルコストに優れ、大断面構造用集成材を活用した場合、より施工手間なども大幅に軽減できること。RC・鉄骨造に比べて減価償却期間が約半分で、トラス自体の空間を配管・空調スペースにできるなどの特徴もあり、地域の建設業者、大工・工務店からの反応も良好だ。既にいくつかの物件が採用の方向で動き出している。

渡邊悠専務は「これまで非住宅物件を木造で建築したいという話をいただいても、見積もりなどで負けてしまうことがあった。物件ごとに、より競争力の高い提案をして、国産材関係者とともに非住宅木造物件の潜在需要を顕在化していきたい」と話す。